



床下収納(非木造用)



■施工される方へのお願い

- この説明書は、必ず施工される方にお渡しく下さい。
- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険及び物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- アルミ外枠は、床面から浮き上がらないよう取り付けてください。つますいけがをするおそれがあります。
- 収納本体は、はめ込み後、アルミ外枠から浮いていないことを確認してください。アルミ外枠から外れ、けが・破損の原因となります。

●施工前に、取付け現場を調査してください。

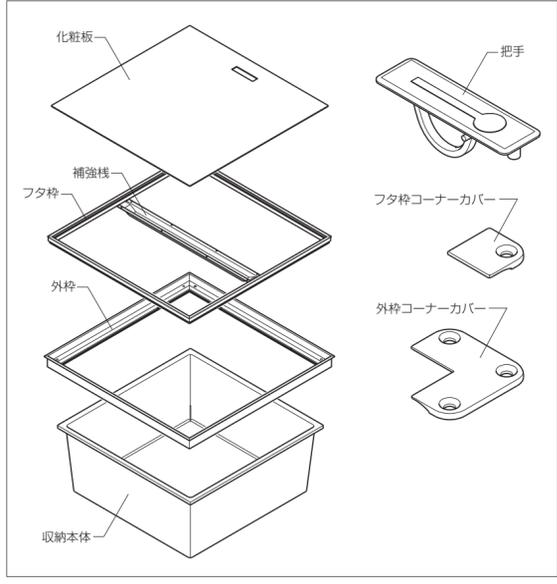
■施工上のお願い

- 枠取付けの際は、水準器等で水平・垂直を確認してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクは強くしすぎないでください。ねじが空転したり、ねじ頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 必ず指定のねじ(同梱)で固定してください。部品・部材の脱落や枠の垂れ下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 枠組立て後、ねじれ・引っ張り等無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
- ガス・水道管に留意して取り付けください。ガスもれ・水もれの原因となります。
- 収納本体は樹脂のため、火気や溶剤の使用の際は留意してください。

■部材・部品一覧表

名称		600タイプ
		入数
収納本体		1
外枠		1
フタ枠		1
補強棧		1
化粧板		1
回転把手(ねじ付き)		1
外枠コーナーカバー(ねじ付き)		4
フタ枠コーナーカバー(ねじ付き)		4
ナベタッピンねじ	φ4×12(補強棧取付け用)	8
皿木ねじ	φ3.8×25(外枠取付け用)	8
	φ3.8×13(フタ床固定用/下)	4
皿小ねじ	φ3.8×25(フタ床固定用/横)	8
	M3×5(フタ枠組立て用)	2

■各部の名称



■組立て順序

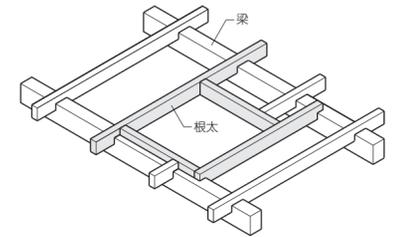
1 取付け現場の確認

- ガス・水道管・電気配線等の障害物がない事を確認してください。
- 梁・根太が指定の位置にある事を確認してください。
- 床材の木目方向(継ぎ目方向)に対し、フタ枠の補強棧が直交するよう向きを決めてください。
- 床からの寸法(下記)および、障害物等がない事を確認してください。
- スラブの厚み・掘込みは、下図のと通りの納まりにしてください。(設計段階で十分に打合わせをしてください。)

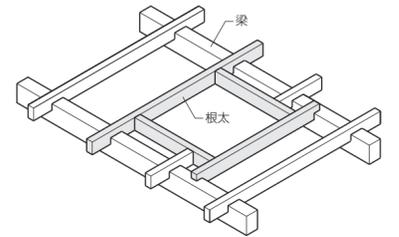
2 床組み

①必要開口寸法となるよう床に穴をあけ、周囲に補助根太取付け用の根太をまわします。

【梁と直角に取り付ける場合】

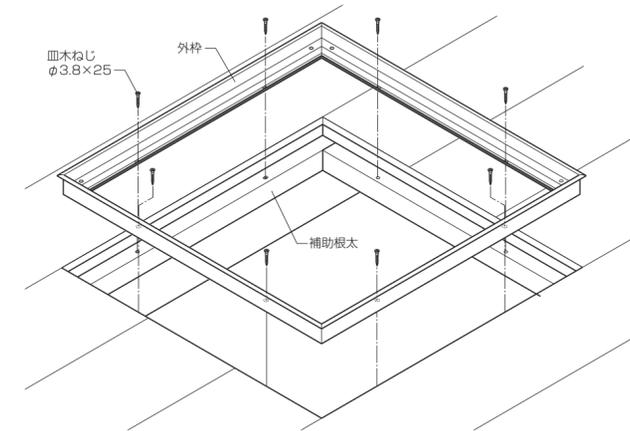


【梁と平行に取り付ける場合】

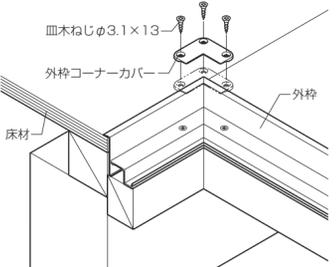


3 枠組み・取付け

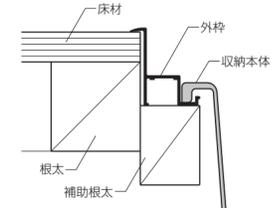
①外枠を開口部にはめ込み、補助根太にねじ止めします。



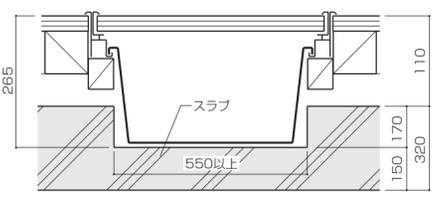
②外枠コーナーカバーを外枠四隅にはめ、床材にねじ止めします。



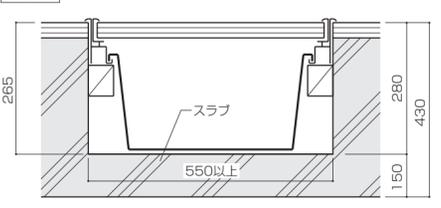
③収納本体を外枠にはめ込みます。※外枠から浮かないようにしてください。フタのガタツキ・本体脱落の原因となります。



2重床

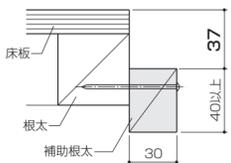


直張り



②床板を張り、補助根太(現場手配)を指定の位置に取り付けます。

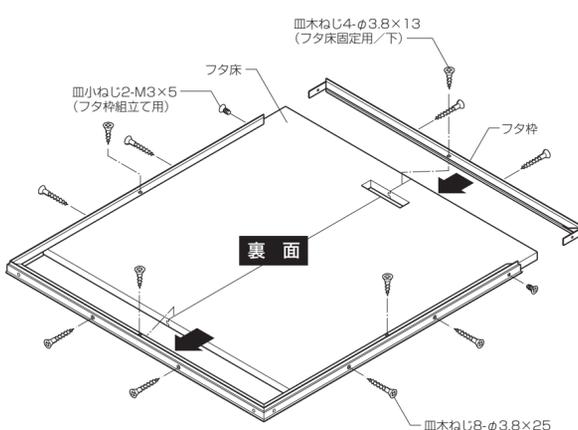
■補助根太取付け高さ



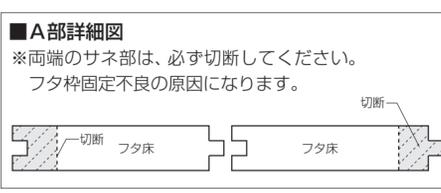
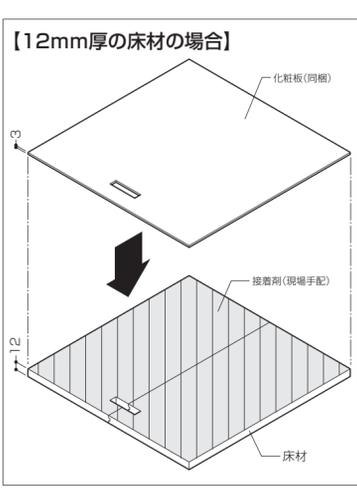
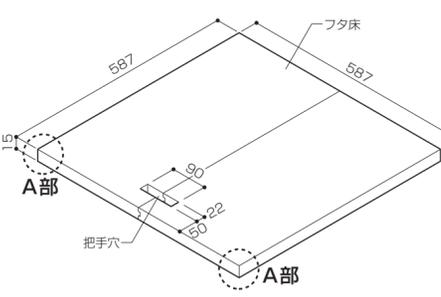
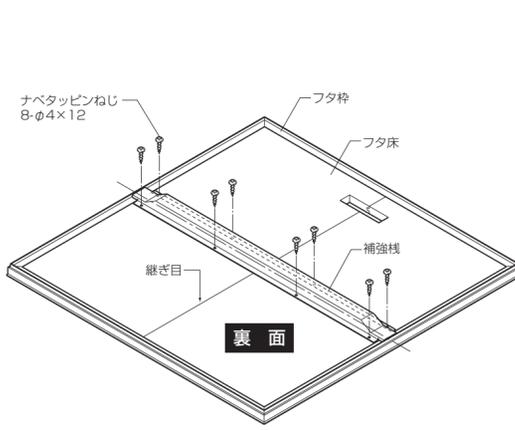
4 フタの組立て

- ①床材を加工して、フタ床を作成します。
※床材の切断及び把手穴の加工には、同梱の化粧板をゲージとしてご使用ください。
※床材板厚は15mm必要です。12mm厚の床材使用の場合は、同梱の化粧板(3mm厚)を接着剤(現場手配)で張り付けてください。(15mm厚の場合は不要です。)
- ※床材合わせ目のサネ部は、必ず接着剤(現場手配)で固定してください。

②フタ床の横(8か所)に下穴(φ2.6×25)をあけ、フタ枠に差し込んで組み立てます。



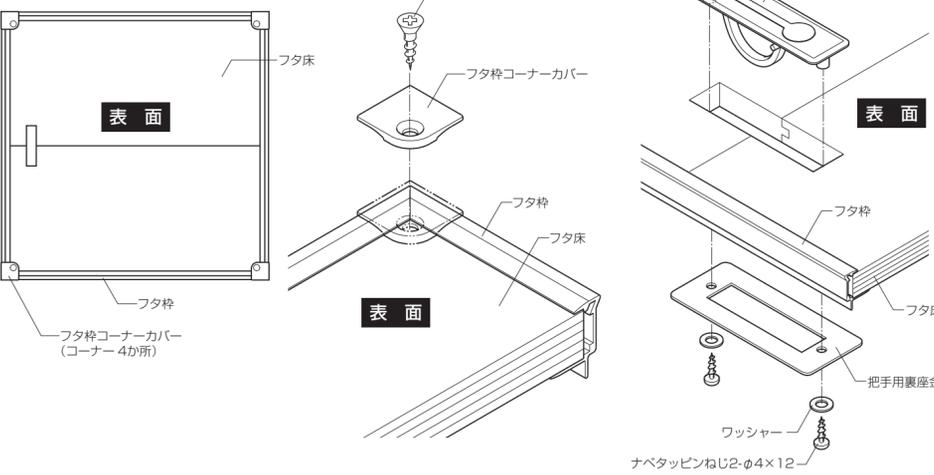
③フタ裏面中央部に、補強棧をフタ床の継ぎ目に直交させて取り付けます。



④フタ枠コーナーカバーを、4か所ねじ止めします。

⑤把手を取り付けます。

■フタ枠コーナーカバー取付け位置



■参考納まり図

